



12月5日 国鉄集会に結集しよう

解雇撤回・清算事業団闘争
勝利をつかむかけ
11・30 / 12・1スト

今日の長期不況の下、いわゆるビックビジネスといわれる会社でさえ、工場閉鎖をはじめ数千・数万の労働者の首切りが相次いでいる。すでに日本は、完全失業者一万六千、「企業内失業者」のレッテルを貼られた労働者が二万、そして細川政権の進める「規制緩和」政策によって二万二千が失業するといわれている。つまり日本の就業者人口の一割・六〇〇万人がが失業者となろうとしている。この攻撃の前に、連合は抗議の声すらあげないばかりか、細川政権全面支持、企業防衛の観点から「アジア侵略」さえ推進しているのである。

こうした状況を見るにつけ、臨調一行革攻撃の目玉として強行された分割・民営化一一〇万人首切りと対決し、一〇年を経た今も、一〇四七名の解雇撤回・清算事業団闘争勝利を掲げ、不屈に闘いぬく国労闘争団・動労千葉争議団のたたかいがますます光輝いてくることは明らかである。

一一・三〇一二・三ストの最重要の課題として解雇撤回・清算事業団闘争勝利を掲げ、下車) 金力! 重要な最も多くの課題として解雇撤回・清算事業団闘争勝利を掲げ、断固闘争を求めるものになる可能性がある。

中労委全面依存では勝てない!
JR体制打ち破る闘いとの結合こそ勝利の道

この年内にも中労委で「JR採用差別事件」に関し、いよいよ命令が出されようとしている。

しかし、この中労委命令は昨年の中労委会長による解決案ならざる「解決案」を見る迄もなく、政府・当局の狙いは、清算事業団闘争潰し、国労の揺さぶりにある。

今、来年二月・スト権ストに対する「解雇撤回」が結審を迎える動向をはじめ国労に対する揺るぎは激化している。

中労委における命令について語られていることは、「誰が見ても妥当と思う命令を出す。(中労委会長)」「組合側が勝った地労委と同じ命令は無理。早期解決に向け労使が話し合えるきっかけとなる命令が検討されている。(中労委関係者)」「大阪の事件は地労

(国労幹部)」「(いずれも一一月の記事)」ということなのである。

知らない。

JR東日本の一二月ダイ改は、新たに一〇万人首切りの突破口である。現場では、時短実施にも関わらず要員は徹底的に削減されている。現場では怒りがぶつぶつと沸き上がりろとしている。しかし、JR総連の怒りが爆発しないのはJR総連の裏切りにある。

いまこそ、現場の労働者の怒りを体現し、現場の労働者の決起を引き出していくかなくてはならない。

闘いの主体である国鉄労働者の闘いをかちとらなくて、解雇撤回闘争の勝利を勝ちとることができんだろうか。そうした闘いの高揚のなかでこそ解雇撤回闘争の高揚も勝ちとれるのである。一一・三

〇一一二・一ストを解雇撤回・清算事業団闘争勝利を掲げ、断固闘争を求めるものになる可能性がある。

われわれは、この重大な情勢に際し、一二・一ダイ改に対応する現場の怒りと切り結び、解雇撤回の闘いの高揚をかちとらなければなりません。

一一・三〇一二・三ストの最も重要な課題として解雇撤回・清算事業団闘争勝利を掲げ、下車) 金力!

委命令が覆り、北海道は命令ではなく解決案と同様の形で労使協議

を求めるものになる可能性がある。

日時 12月5日(日) 13時より
場所 東京・千駄ヶ谷立民館(原宿駅)
指定列車 千葉③号 11時25分発
最優先乗車